

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號二第

卷三第

論說

國防稅ノ本質

でがらつご・ひゆーむノ經濟學說(四)

資本ノ眞概念ノ發展(一)

戰後ノ人口増加政策(一)

支那近代ノ戸口ニ就テ(三卷)

在外正貨ト兌換券ト關係ヲ論ズ

雜錄

服部氏國際經濟論ニ對スル向井氏ノ批評

瀧本誠一氏ノ草莽ニ就イテ解題ニ就イテ

福田博士ニ答フ

戰時利得稅ノ諸學說及實例

英吉利ノ新稅

米國ニ於ケル船舶買收法案ニ就テ

經濟雜誌第五

統計書ノ概說

らぐれー「ミール」學說ノ研究(二)

『通俗經濟文庫』ノ刊行

『經濟大辭書』ノ完成

法學博士 神戸 正雄

法學博士 福田 德三

法學博士 河上 肇

法學博士 米田庄太郎

文學博士 内藤虎次郎

法學博士 小川郷太郎

法學博士 河上 肇

法學博士 鈴木券太郎

法學博士 本庄榮治郎

法學博士 神戸 正雄

法學博士 河田 嗣郎

法學博士 岸本熊太郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 財部 靜治

商學士 大塚金之助

法學博士 福田 德三

法學博士 神戸 正雄

(載 轉 禁)

大正五年八月一日發行

# 『經濟大辭書』ノ完成

神戸 正雄

編纂ノ爲メ十餘年ヲ費シタル同文館發兌經濟大辭書ガ今回完成シタ。其ハ全部九冊四千五百頁ヨル成ル所ノ我學界空前ノ大出版物デアル。又實ニ我經濟學史上ノ一大出來事トシテ特筆スヘキモノデアル。本書ノ編纂ニ就テハ固ヨリ福田(全體ノ總括者)内田(東洋部主任)兩博士ヲ初メトシテ、諸學者ノ貢獻ノ大ナリシコトヲ認

ムヘキデバアルガ、鹽谷濤作、石原正治兩君ノ如キ熱心ナル事實上ノ編纂者ノ效勞ニ對シテハ最多大ナル敬意ヲ表シナケレバナラス。特ニ予ハ此難事業ヲ企畫シ成就シタル大膽ナル書舖森山章之亟君其人ノ犧牲ニ對シテモ、絶大ナル同情ヲ寄スルモノデアル。

此書固ヨリ本邦ニ於ケル最初ノ試デアルカラ完全無缺ナルモノトハイヘナイ。併シ獨英佛等ニ於ケル同種ノ辭書ガ完全ナリヤトイフト、決シテ左様デハナイ。予ハ年來此等ノモノヲ利用シテ居ルガ、屢々其缺點ヲ見出シ、又幾度カ失望ヲ禁ジ得ナカツタ經驗ヲ有シテ居ル。其等ト本書トヲ比較シテ、本書ニ於テ特ニ缺點ノ大ナルヲ見出スコトハナイ。却ツテ本書ニハ東洋ニ關スル事項ノ加ハツテ居ルダケ、彼等ノ足ラザル所ヲ補フテ居ルトイフコトガ出來ル。此點ニ於テ本書ハ人ノ往々ニシテ考フル所ノ東西文明ノ調和トイフコトヲ經濟學上ニ於テ實現シタモノトシテ、一大世界文化的貢獻トイフコトガ出來ル。若モ日本語又ハ日本文ナルモノガ今少シ

多歐米人ニモ入り易ク解シ易キモノデアツタナラバ、恐ラク本書ノ如キハ獨リ本邦人ノミナラズ、歐米人ニモ珍重セラルルコトトナツタデアラウ。本書ハ確カニ其資格ガアル。

我等ノ如キ學究ガ研究ニ從事スルニ就テハ原書ニ就イテ面倒ナル調査ヲ爲ス義務アリト思フガ、實際ノ局ニ當ル政治家行政官事業家新聞雜誌記者等ニ於テハ必ズシモ一々原書ヲ詮索スルニ及バナナイ。手ツ取り早く譯書ヲ播イテ會得スレバ足ルノデアル。其ニ疑ガ起リ又ハ物足ラヌ感ヲ懷イタ時ニ、又相當調査ノ時間ノアルトキニ、初メテ原書ヲ調査シタラバ其レデ宜シイ。本辭書ノ如キハ、即チ右ノ人々ヲシテ歐米ノ經濟ニ關スル理論及實際ヲ原書ニ依ラズシテ手ツ取早く理解スルヲ得セシムルノ效ガアル。特ニ經濟ニ關スル書物トイフテモ、一通リ備ヘヤウト思ヘバ、幾十種ヲ要スル。然ルニ本書ノ如キハ殆ンド全體ノ經濟ニ亘ツテ居ルカラ、他ノ幾十種ノモノノ代用タラシムルコトガ出來ル。特ニ最後ニ索引ガ出來テ居ルカラ、最簡單且便利ニ

必要ニ應ズルコトガ出來ル。世ノ各方面ノ實際家ニ本書ヲ備ヘンコトヲ熒ムル所以デアアル。

予ハ此事業ニ關係サレタル諸士ノ功勞ニ對シテ重ネテ深厚ナル敬意ヲ表シ、同時ニ世ノ實際家ガ此事業ヲ助成センコトヲ希望シテ已マナイ。若シ夫レ本書ニ潜在スル缺點ニ至テハ、關係者諸士ノ忠實ナル、必ズヤ適當ノ時機ニ訂正セララルヘキヲ信ズルト同時ニ、斯カル改良補修事業ノ將來行ハルルヤ否ヤモ亦、一ニハ世ノ人々ガ此事業ヲ熱心ニ助成スルヤ否ヤニ係ルコトヲ注意セント欲スルモノデアアル。